

京都工業会ニュース

基本理念 -21世紀を担うモノづくり集団- 京都からモノづくりイノベーション

新春号 2017 No.389

2017年 新年ご挨拶 2~9

会長	依田	誠
副会長	武田	一平
副会長	立石	文雄
副会長	中本	晃
副会長	小畠	英明
副会長	錦織	隆
副会長	片岡	宏二
副会長	山岡	祥二



会員企業トップにインタビュー（第7回） 10

第7回目は、サンエー電機株（南区）に牧野 稔社長を訪問。
“トランスと電源のスペシャリスト”として、自社の強みを最大限に活かしながら様々な分野に積極的にチャレンジしておられる同社の経営についてお話を伺いました。

◆牧野 稔社長

山形県産業視察 11

精密金属加工、電子機器製造など最先端技術を有する工場、高級家具の世界的メーカー、将棋の駒を伝統の技で生産する工房など、山形県の美しい自然に囲まれた元気なモノづくり企業を訪問しました。

京都工業クラブ開催 11

- 「わが国航空機産業の現状と今後の展望」
- 「伝統文化と人材育成～京都花街の事例～」
- 「2017年の経済見通し」

予告

- | | |
|--------------|----------|
| 経営革新セミナー | 12 |
| 京都産学公連携フォーラム | 13 |

ジェトロ京都事務所ご紹介 13

- | | |
|-------------|----------|
| 表彰・顕彰 | 14 |
| 事務局休業日のお知らせ | 14 |

事業活動報告

白鷺クラブ 4団体合同交流会 12

滋賀経済産業協会・奈良経済産業協会・兵庫工業会の若手経営者の会との交流会を、京都にて開催しました。

業務革新研究会 12

女性活躍推進企業事例紹介（第3回） 16

モノづくり企業で活躍する女性管理職と候補者をメンバーとする「女性の会」会員企業の中から、先進的な取り組みを実践しておられる企業を紹介。3回目の今回は、株堀場エステックの事例を紹介いたします。



年頭所感

会長 依田 誠

新年明けましておめでとうございます。皆さまには穏やかなお正月を迎えたこととお慶び申し上げます。

2016年は年初より“今年の10大ニュース”のネタには事欠かない年でした。北朝鮮の水爆実験に始まり頻発するテロのニュースに引き続き、5月に英国のEU離脱のニュースを聞いた時にはこれで今年の10大ニュースのほとんどが上半年だけで埋まったなと思いました。ところがこれは大きな誤りで、トランプ氏の次期大統領選出というビッグサプライズが11月に待っていました。

英国のEU離脱やトランプ氏によるTPP脱退予告、あるいは世界各地におけるポピュリズムの台頭はグローバリゼーションの目指す大きな経済圏の括りの繁栄から漏れている国や人々の不満が、もはや無視できないほど大きくなっているということを示しています。国や地域そして世界の繁栄はより大きな市場でともに栄えともに成長して行くことによってのみ成し遂げられる、というグローバル化礼賛に対する反感にも思えます。言い換えるれば、グローバル化のもたらす恩恵を受けられずにいる人々が求めているものは小さな政府、小さな経済圏であり、手段の如何を問わず自分たちの苦しい生活レベルの向上、であるとも言えます。トランプ氏の主張する“TPPよりも二国間貿易協定”は、ローカルルールで個別に条件を決めようというビジネスアプローチであり、その意味するところはまさにグローバル化に対峙する意味でのローカル化にはなりません。しかしながら二国間交渉は当事国双方で、恩恵を受けるものと不利益を被るものがより明確になり、結局、総論賛成各論反対という人々が増え、政府としての方針や政策が決められなくなる恐れが多分にあります。もとより政治とはそういうもののかもしだせんが世界がこれだけ肥大化している現代において進化の停滞は後退であり、停滞を恐れるあまりに判断を誤り人類全体が間違った方向に進むことにもなりかねません。なぜなら、近年の急激な人口増加と地球の持つキャパシティを考えると、いよいよ人類が人口調整の局面に入って行くこともあり得ると思うからです。人類は果たして（個体数が増え過ぎると個体数調

整の為、集団で川に飛び込むといわれる）レミングより賢いのでしょうか？

フランスの次期大統領候補のひとりである極右政党・国民戦線のマリヌ・ルペン党首がトランプ氏とブーチン氏、そして自分が世界のリーダーになればより良い世界を実現できる、と言っていますが、もし彼女の野心が実現したら世界が漂流を始めることにもなりかねません。無論、人類が過去に学んだ経験から世界戦争につながるような極端な国粹主義に走ることはないでしょうが、核保有国のすべてのリーダーが常に冷静沈着な人たちだけとは限りません。

今ここに解はありません。が、これから先しばらくはグローバル化でもなくローカル化でもない、誰もが幸せに生きて行ける世界を創るための、第三の選択肢を探る期間になるのではないでしょうか。いずれにせよ当面政治経済の混乱が続きそうではあります。

さて、こうした混沌とした世界情勢の中、2017年がスタートしました。今年の干支は丁酉（ひのと・とり）です。これを五行で解釈すると“ひのと”は火、酉は金。火と金は相性が悪く“相剋”的関係と言われているそうです。相剋、即ち“対立・矛盾する二つのものが互いに相手に勝とうとして争うこと”であり、いろいろな意味で競争＝争いが激化する年と読み解くこともできそうです。今の世相をそのまま表しているような干支の解釈ですが、我々ビジネスの世界に生きるものにとって“競争”は日常茶飯事の出来事であり、少しも異例なことではなく、かえってノーマルな年のように思えます。常に“治に居て乱を忘れず”を肝に銘じているわれわれ経営者にとって動乱の年＝チャンスの年でもあります。慌てふためくことなく、平常心でこの相剋の年を乗り切って行こうではありませんか。

結びに、2017年が会員各社の更なる飛躍の年となることを祈念して年頭のご挨拶といたします。

(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 会長)



年頭所感

副会長 武田 一平

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
旧年中は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、英国のEU離脱決定と米国のトランプ次期大統領誕生という2つの大きなサプライズがありました。背景にあるのは、欧米に広がる反グローバル化の波です。冷戦終結後、人やもの、情報が国境を超えて広がるグローバル化が急速に進んだ結果、多くの国に経済発展をもたらした一方、経済成長の恩恵を受けられず取り残された人々も数多く生まれました。こうした格差や貧困、移民の流入といったグローバル化のひずみが逆潮流となり、極端な保護主義や排外主義が広がっていくことには懸念を抱かざるをえません。他者を受け入れるルール作りや、異なる宗教や人種、文化を認め、多様性があり、かつ秩序ある社会を築いていくことが大切であると思います。

一方、ICTの発展や人々の価値観の変化（「もの」から「コト」へ）等により、産業構造や経済・社会の在り方が急速に変化する大変革の波は確実に増幅しています。次々に生み出される新しい知識やアイデアがゲームチェンジを起こし、国や企業の競争力を大きく左右する時代になっています。こうした流れを踏まえ、政府も第5期科学技術基本計画（2016～2020年）の中で、ネットワークやIoTの活用をものづくり分野だけでなく様々な分野に広げ、経済成長や社会変革に繋げていく方針を示して、「超スマート社会（必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な制約を乗り越え、生き生きと快適に暮らすことができる社会）」を未来の姿として共有し、エネルギー制約やサイバーセキュリティ、気候変動等の国内外で直面する社会課題を世界に先駆け解決しようとしていま

す。「超スマート社会」の実現には、科学技術イノベーションの創出が必要となります。果敢にチャレンジし、戦略的に取り組むことは、産業界にとっても競争力の維持・強化に必要なことだと思います。

さて、当工業会の多くの会員企業の皆さんには、我が国の歴史と文化の中心地である京都で育まれた多種多様な伝統技術をDNAとして、独創的で先端的な事業を起業され発展させてこられました。前述の大変革の波を捉えて、新たな価値を生み出していくことが期待される中で、今後とも互いの強みや知恵を活かすために情報を交換し合って、切磋琢磨しながらイノベーションや新たな企業活動の展開に繋がればと願うところです。情報交換や研鑽の場を提供する当工業会の役目は、益々重要になってまいります。

なお、当社は電機・電子機器用のアルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサを主軸製品として展開するとともに、家庭におけるエネルギーの地産地消に貢献する家庭用蓄電システムやV2Hシステム、社会インフラとしてのEV用急速充電器や公共・産業用蓄電システム、さらにはスマート医療として普及が進むがん粒子線治療用加速器電源なども商品化し、社会に提供させていただいています。

このような企業活動を展開していく上でも、当工業会の活動方針に沿った産学公の連携をさらに深めていきたいと考えています。引き続き関係各位のご協力とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

京都工業会会員皆々様にとって明るく輝かしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

（ニチコン株 会長）



持続的な経済発展へ向けてのテクノロジー革新

副会長 立石 文雄

新年明けましておめでとうございます。

皆様にとって希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年2016年を振り返りますと、歓喜に沸いたリオのオリンピック、衝撃の走ったアメリカの大統領選挙など世界中で感動と感嘆の渦が巻き起こりました。また、国内ではG7伊勢志摩サミットが成功裡に開催され、議長国として国際社会における日本の使命と責任を果たしたことが記憶に新しいことと思います。

しかし何と言っても、リオデジャネイロオリンピック大会での日本選手の活躍が記憶に蘇るのではないでしょうか。ご存知の様に、前回のロンドンオリンピックの38個（金7個、銀14個、銅17個）を上回り、史上最多の41個（金12個、銀8個、銅21個）のメダルを獲得しました。2020年の東京オリンピックでの更なる日本人選手の活躍を期待し、メダル候補と有力視されるアスリートへのサポートにも力が入ることでしょう。

さて昨年の年頭に、「SINIC理論」による“ものづくり”現代・未来考！というタイトルでお話をさせてもらいました。今年は、持続的な経済発展へ向けてのテクノロジー革新について述べたいと思います。

社会は過去大きく変わってきました。これからも同様であることは語るまでもありませんが、例えば産業革命の前後で生産性は一人当たりGDPとして\$400から\$1万へ大きく変化した歴史があります。第4次産業革命でデジタル社会に変化することに伴い、生産性は更に10倍以上の変化が見込まれます。但し、アフリカなどの新興国は伸び悩む恐れすらあります。主要産業を国営化しひローバルレベルでの生産性向上よりも、自国の利益を優先する考え方があるのも無理はなく、どの国もデジタル産業における先進国企業の下請け的な存在は回避したいが故です。

近代社会の発展の歴史を振り返れば、多くの国家において鉄道や電力などの社会インフラに民間企業が投資し、拡大成長させお互いに淘汰することで社会変革を起こしてきました。自動車産業等も同様です。リスクテイクする企業の登場が変革には不可欠でした。昨今では、ICTが社会インフラ化する時代が到来していることは周知の

事実です。これはICTによる“インフラストラクチャー プロパティー化”の幕開けを意味します。まさに現在、プラットフォームをはじめとするICT企業が社会インフラの構築に参入し、リスクテイクしながら社会変革（混沌と混乱の打破）を巻き起こすことが初めて起きようとしています。

これは、昨年も触れました我社が提唱している未来予測理論「SINIC理論」で予測した世界の実現とも言えます。SINICとは“Seed-Innovation to Need-Impetus Cyclic Evolution”の頭文字をとったもの。新しい科学が生まれると、その科学から種（Seed）をもつて、新しい技術が開発され、それぞれが社会を革新（Innovation）していく。また、社会から出てくる要望や必要性（Need）に対して、それを満足させるために新しい技術が開発されることもある。さらに、その技術が科学に刺激（Impetus）を与えて、新たな科学をつくり上げることもある。このように、科学、技術、社会の3者間には、2つの向きの円環的な関係が成り立っているという考え方です。即ち、現在の社会の要求がICTにテクノロジー革新に繋がる刺激を与え、その結果が社会インフラの変革を呼び起こすのです。

人を機械が代替して来た過去がありました。人と機械が共に働く「協働」している時代がまさに現代とした時、これからは人と機械が「融和」する時代が訪れます。IoTやAIが人の仕事を奪うのではなく、人の力を高めるのです。AIの活用事例として、囲碁でAIと人間とのチャンピオンの勝敗が関心を集めています。注目を集める手段として否定はしませんが、本質はAIとの競争ではなく、AIをはじめとする新たなテクノロジーに支えられた機械との「融和」なのです。これから本格化する新産業革命により歴史的な生産性の向上が成し遂げられるには、持続的な経済発展に向けて“人と機械”的な関係のあり方を適切に導き出す“企業の存在”が不可欠であることは言うまでもありません。

結びに、新年にあたり「京都工業会」会員企業様の持続的な成長と、皆様のご多幸とご健勝を祈念いたし、ご挨拶とさせていただきます。

（オムロン（株） 会長）



年頭所感



副会長 中本 晃

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今は、通常では起こり得ないと思われたようなことが次々と起きる不確実性の時代と言われています。昨年のイギリスのEUからの離脱、アメリカの次期大統領にドナルド・トランプ氏が当選、また熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の大きな地震が発生したと思ったら、それから1日半ほど経ってからマグニチュード7.3の大地震が発生、先の地震が前震で、後の地震が本震ということでしたが、これらのことなどはそれを如実に現しているように思います。

一方、科学技術の面でみますと、今は、AI・ロボット・IoT・バイオテクノロジーなどに代表される第4次産業革命（命名者は世界経済フォーラム創設者でもあるクラウス・シュワブ氏）の時代とも言われており、中でもAIが囲碁や将棋で世界のトップ棋士に勝つようになったとか、がん診断などで医師ではなかなか見つけ難かった“がん”がビッグデータ等を活用して短時間で見つけることができたなど、これまで実現するにしても遙か先としか考えられなかったことが早くも現実のものになろうとしています。コンピューターとデジタル技術の発展で始まった第3次産業革命から50～60年経って始まった、この第4次産業革命は第3次産業革命の延長線上にあるようなものではなく、質的に異なる大変革となりつづあると言われ、既存の社会構造を根底から変容させ、人々の生活に良い面、悪い面も併せ、多大なる影響を及ぼすものになると見られています。

新年もこの様な不確実性の時代と言われる状況が続くものと思われます。また、大変革となるような技術革新により想像だにていなかつたような状況が創り出される可能性も出てきます。しかし、この様な不確実性の時代、また、大変革となる技術革新の時代であっても、人々の生活は続いていくし、我々経済界の活動も続いていくわけです。

話は変わりますが、最近TVドラマの影響もあってウ

イスキー人気が高くなり、また日本のウイスキーが世界の権威ある賞を受賞したということもあって品薄状態が続いていましたが、そのような状況の中で、私個人は、このウイスキーを飲んだ時に、以前とは違って、今や世界で一番おいしいのはサントリーのウイスキーではないかと思うようになりました。先日、サントリーの山崎蒸留所を久しぶりに訪問する機会があり、ウイスキー造りの工程を見学し、創業者の「日本人に愛されるウイスキーを造る」という強い想いのもと、80年以上の長きに亘って、目標を実現するための経験と工夫を積み重ねてきた努力の跡を感じ取ることができ、一番おいしいと感じたことは尤もだと納得できたこと、そして社会とか経済環境が大きく変わる中であっても、目標を常に見据え、長期に亘って地道にもの造りの技術を積み上げ、磨き上げていくことの大切さを感じた次第です。

また、この第4次産業革命は、様々な分野の先端技術が同時発的に融合しながら発展する特徴があると言われております、技術革新の進展が、これまでとは比べものにならないぐらい早くなるとともに、多様な新しいビジネスが生まれる機会が増えると思われます。そしてAIとかIoTなどの進展について、これまでとは全く違った視点とか発想でのもの造り、商品開発が必要になってくると考えています。それが出来るようになるためには、企業にとっては、これまで以上に、新しい分野を切り開いていける優秀な人材を育成することが不可欠のことになると思います。

長期的視野に立ってのものづくり力、技術革新の流れを呼び込み自社独自の技術／商品に仕上げる創造力、この二つのことは永い歴史の中で、多くの京都企業が挑戦し、培い、備えてきたことだと思います。例え、不確実性の時代、大変革となるような技術革新の時代と言われるような時代であっても、会員企業の皆様とともに備えた力を遺憾なく発揮してチャレンジして、この2017年が会員企業の皆様にとって飛躍の年になることを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(株)島津製作所 会長)



年頭所感

副会長 小畠 英明

会員の皆様、2017年明けましておめでとうございます。まだまだ駆け出しの副会長ではありますが皆様のお役にたてるように頑張って参りますので本年もよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

昨年は丙申（ひのえさる）の年でした。この年は大変革の年、大変動の年になると言われていましたがまさにその通りで、年初から円高・株安になるわ、マイナス金利が導入されるわとまさに大変革、大変動の年になりました。今年は丁酉（ひのとり）の年、酉年は商売繁盛の年と言います。昨年の大変革・大変動をチャンスとして捉え、それを商売繁盛につなげていく年にしていくたいと念じております。

さて、私が社長をしております日新電機は今年、創立100年。前身である日新工業社の創業から数えると107年を迎えます。日新工業社は京都帝国大学で電気の研究をしていた富澤信が電気計器の国産化を志し、家宅を売却、資産家の支援を得て立ち上げた会社です。今風に言えば大学発のベンチャー企業が日新電機グループのルーツというわけです。その後、成長のための資金を幅広く集めるため株式会社化して日新電機株式会社となりました。この時を「創立」と呼んでいます。

こうした明治期のベンチャー企業であった日新電機が1世紀を越えて事業を続けることができているのは京都という土地で事業をしてきたことのお陰であると思っております。長寿の会社が多い京都で「創立100年」などと言いますと「100年位で喜んだらあきまへん。もっと長ごう気張らなあきまへんで！」という声が聞こえてきそうです。京都には長く事業を続けていることを尊ぶ風土があるように思います。私たちが100年を越えて事業を

続けてくることができたのも、こうした長寿企業を尊ぶ風土の中で多くの会社と切磋琢磨しながら事業をすることができたからだと思っています。

そして、京都の革新性ということも私たちが事業を続けてくることができた要因であります。明治維新後の遷都で衰退の危機に陥った京都は大胆な産業振興策を掲げ、日本でもいち早く水力発電を立ち上げるなど電力インフラ整備を進めてきたことが近代産業の勃興につながりました。そのことが日新工業社といった電力機器のベンチャー企業が起業できる素地になりました。また、日新電機の主力製品である電力機器や半導体製造装置は、多くの部品やモジュールを組み立てて作ります。そうした部品やモジュールは京都市とその周辺でほとんど調達できます。こうした京都の高い産業集積、そして多くの大学が集まる知的集積といった産業都市京都としての強さが、私たちの事業を支えてくれたと思っております。

京都工業会は機械・金属関係の大企業と中小企業が、大同団結して抱える問題の解決に取り組み事業の近代化に取り組んでいこうとの趣旨で発足し、その後人材育成、環境問題、国際化へと活動のウイングを広げながら一貫して京都の産業力強化に力を尽くしてきました。こうした京都工業会の活動が産業都市京都としての強みを形づくり、戦後の成長をけん引してきたと言っても過言ではないと思います。

京都工業会が果たしてきた役割をしっかりと認識しながら、産業都市京都の一層の基盤強化に向けて微力ながら貢献する一年にしていきたいと考えております。

（日新電機株 社長）



新年あけましておめでとうございます。

副会長 錦織 隆

京都工業会の会員の皆様には ご家族御揃いで お健やかに 新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年から今年にかけての大きな出来事の一つはアメリカ合衆国の大統領選挙でしょうね。



世界のお客さまとビジネス展開する者として 今後が非常に 心配な事項です。

不安と期待が入り混じった 何とも言えない気分です。スースー、ゾクゾク、ワクワク、ゾーッ・・・・

今後を占うトランプ占いは大きく外れて 対応策を立て難く ただ状況静観しているわけにもいかず・・

あらゆる情報の収集と BCPの作り直しくらいしか思い当りません。

ビジネスマンとしての正しい見識と行動を期待し 自分の言動を正すことでしょうか？

京都北部で 事業をしていて 感じる事が いくつあります。

第一に 優秀な人材の流出問題です。高校を卒業すると 男性も女性も 故郷を離れ 都会に勉学の為、就職の為に出て行き なかなか帰ってきません。帰っても仕事が無いと言われるのは良く分かっていてその為 我々地元企業は社業と地域発展のため 様々な手を打っているわけですが 地域環境はそう簡単には変わりません。しかし 緑豊かな 山、海に囲まれて のびのび仕事ができる豊かな自然環境の元で 世界に発信し続けていま



す。地の不利を生かして・・・ 製造業を営むため 大切な人材育成として女子モノヅクリ大学の設置を提案しています。ここ丹後は300年前から丹後ちりめんの産地です。

ここでは 女性が生産に大きく携わってきていました。優秀で物事をきちんとこなす女性です。この女性の特質を生かし モノヅクリをする女性を増やす事で 安倍政権の言う地方創生と女性活躍社会の実現を京都丹後から と 切望しています。世界の皆さんのお役に立つものをつくるため。

第二に 交通インフラ問題です。最近やっと京都市内と丹後地方とを結ぶ 高速道路が全線開通しました。それでも京都府庁まで まだ2時間かかります。 新幹線の舞鶴～京都～関西空港 路線の実現は京都だけでなく 兵庫、鳥取、島根、山口と続く山陰地方の経済発展に大きく寄与すると思います。京都は大陸から見ると 日本の表玄関です。

関西空港、豊岡空港も 世界への出発点だと思うのですが・・・



首都圏一極集中ではなく 地方の発展が国を支えます。

ローカルから世界へ=GLOCAL。

今年こそ 良い年になりますように祈念して 新年の挨拶とします。

(株)日進製作所 会長)



年頭所感

副会長 片岡 宏二

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

私は日頃から今の時代は何が起こるか解らないので、何事が起きても覚悟して、動じることのないように自分に言い聞かせています。昨年も予想外の事が沢山起きました。

明るいニュースとしては、8月のリオデジャネイロオリンピックで柔道、水泳、女子レスリングをはじめメダルラッシュにわき、日本中が熱狂しました。また東京工業大学の大隅良典先生の生理学・医学賞受賞により、3年連続で日本人のノーベル賞受賞が決まりました。大リーグではイチロー選手が6月に日米通算4,257本安打を達成、8月には日本人/アジア人としては初めてメジャー単独での3,000本安打を達成しました。

政治の世界では舛添知事の辞任を受けて7月に行われた都知事選で小池百合子氏が自民党の推薦候補を退けて当選、また野党民主党の代表も蓮舫氏が就任するなど女性の活躍も目立ちました。

日本の経済においてはアベノミクス第3の矢の成長戦略がうまく刺さらない中、1月には日銀がマイナス金利の導入を決定し、7月には与党は参院選で消費増税延期の任を問う事となりました。

一方で世界の経済にとっては自由な競争や貿易で繁栄をめざすグローバル経済にとっては試練の年となりました。6月には英国でEU離脱の是非を問う国民投票が行われ、大方の予想とは異なり離脱派の勝利となって今後2年以内に英国はEU離脱を行う見込みとなりました。Brexitと言う新語が生まれ、世界中から驚きを持って受け止められると同時に、世界経済に大きな不安を与えることとなりました。更に11月に行われた米国の大統領選でも、共和党のドナルド・トランプ氏が本命と見られて

いた民主党のヒラリー・クリントン氏に勝利し、第45代合衆国大統領となる番狂わせがありました。更に日本にとってもう一つの予想外はトランプ氏の勝利は円高、株安につながると大半の有識者が予想していた中で、トランプ有利が伝えられた時点では一旦大きく円高、株安に振れたものの、実際に当選が確実となると逆に大きく反転、ダウは史上最高値を更新しドル円も大幅な円安、日経平均も年初来高値を更新しました。

起こりえないと思われた筋書きが次々と実現するまさに不確実性の時代に、いかにゆるぎない経営を維持していくか、大変難しい舵取りが求められた年でした。

世界にマーケットがあれば、私たちはそこで戦える商品を持たなければならぬと考えています。

そんなシンプルな考えのもとで弊社の海外展開を行っています。今では弊社の製造装置や検査装置が世界市場でトップシェアを誇っているものもあります。目指してきたのは、グローバル・ニッチトップになれる商品の開発・販売であります。独自の加工システムを、競合メーカーに負けないスピードと高信頼性により世界市場でのシェアを手にしてきました。連絡を受ければ、何よりもまず、すぐにお客様のもとへ駆けつける——。国内でも海外でも変わらない誠意ある営業スタイルを通して、日本はもとより世界にも目を向けながら、グローバルな市場に密着した活動を続けています。

本年は私も年男であります。当社も「企業は社会の公器」というDNAのもと、真のグローバル企業へ向けて新たなる挑戦を続けて参ります。

最後になりましたが、会員企業各社様の益々のご発展と、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

(株片岡製作所 社長)



年頭所感

副会長 山岡 祥二

2017年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は工業会会員の皆様には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年も相変わらぬご高配を賜り、引き続き工業会活動へのご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年も印象深い様々な出来事がありましたが、やはりもっとも強く記憶に残る出来事として米国大統領選を挙げる方が多いのではと思います。

総得票数ではクリントン候補がトランプ候補を約200万票上回ったものの、獲得議員数では大方の予想に反し、大きく水をあけられて敗れました。

トランプ候補が勝利を収めた直後に大幅な円高株安に動きましたが、翌日からは一転して円安株高が進み、その後も国内景気においては歓迎すべきレベルで推移しており、これは選挙期間中の過激な発言が、時間の経過とともに徐々に緩和されつつあることへの期待感、安堵感の表れではないかと思われます。

そしてこのレベルが今後も維持できるよう期待したいものです。

只、いささかトーンダウンしているとはいえ、次期大統領の地位が確定してからも過激発言は相変わらず繰り返されており、過去の物差しでは推し量れない人物であることには変わりはありません。

傲慢さが際立つ中国・ロシアに対峙すべきオバマ大統領の「見守り姿勢」からの方向転換があるのか否かも注目したいところです。

更にはこれまでのトランプ氏の発言に見られるように、自国の利益を最優先に政策を進めていくという政治家、政党の台頭は、米国や英国に留まらず世界的な潮流となりつつあります。これ等がもたらす政治的、経済的な混乱も想定され、これには大きな危機感を抱かざるを得ず、引き続き事態を注視していかねばなりません。

国内の景気動向におきましては、業種、企業規模等々

によって相違はあるものの、押しなべて企業業績は堅調に推移しているといえます。その一方で極めて低い成長率から中々脱出できないという現実があります。

米国経済が好調を維持し世界経済をけん引している中で、高い成長率を誇ってきた中国や東南アジア諸国等々の国々の勢いに陰りが見え始めてきました。

そしてこれまで維持されてきたEC諸国の結束にも危うさが感じられます。

安倍政権による懸命の経済政策にも拘らず、中々目に見える成果に繋がらないのはこういった外的要因も少なからず影響していると言えるでしょう。

次に昨年10月に行われた当工業会のカナダ・キューバ視察ですが、11月発行の京都工業会ニュース視察報告をご覧頂いた方もおありかと思います。

私自身も帰国後に何人の方々から視察に関する質問を受けました。これは過去の視察ではあまりなかったことです。

やはりそれだけ興味深い国……未知の国……いつかは訪れたかった国だということなのでしょう。かく言う私自身も今回の視察には今までの諸外国とは違う高揚感があったように思います。

この選択は依田会長によるものですが、キーワードは「安全」「新規」「旬」ということでした。確かにこの視点で世界の国々を見渡すと、選択肢がかなり限られてくることに改めて気づかされます。

オバマ大統領とカストロ議長との交渉を経て、米国・キューバとの国交回復が成立し今後、飛躍的に観光客が増え続けていくことは間違いないでしょう。

そしてキューバ経済が着実に発展を遂げていくであろうことを確信しつつ帰国しました。

只、キューバ政策に関するトランプ次期大統領による昨今の否定的な発言が、ようやく開かれた両国関係に水を差さないように祈りたいと思います。

(株)山岡製作所 会長)

■会員企業トップにインタビュー〈7〉

トランスと電源のスペシャリスト をめざして

サンエー電機(株)

社長 牧野 稔氏

—会社創業以来の歩み

1969年 サンエー電研 創立
1971年 サンエー電機(株)に改組
1975年 南区久世(現本社)に工場新設
1984年 東京営業所開設
1991年 舞鶴工場新設
〃年 福岡営業所開設
1995年 名古屋営業所開設
1998年 ISO9001認証取得
2002年 ISO14001認証取得
2013年 台湾三暉照明股份有限公司設立



▲同社本社工場

—創業以来の取り組みについてお聞きします。

大手電機メーカーの協力工場の技術者3人(父を含む)が「他社にないものをつくる」という思いで、電磁技術をもとに独立したのがスタートです。

部品や材料を効率よく使い、組み立てるモノづくり。この考えを基本に、そしてその理念を現在に引き継ぎトランジスタや電源装置の技術開発に取り組んできました。

創業当時は高度成長のもと、集合住宅が次々と建っていたことから、玄関ブザーの需要が急増していました。しかし従来製品だと配線が長く設置に時間を要するためスイッチと製品をつなぐだけで使える“トランジスタブザー”を開発し、これが評価され公団住宅に採用されました。これが、今に至る住宅設備分野の製品開発につながっています。

—その後、各分野に進出されていますね。

はい。医療機器分野への電源供給が大きな柱となりました。身近では内視鏡やベッドサイドモニターの電源で、軽量小型化に成功し、医療現場で評価を得ています。他には環境関連分野にも注目していますが、中でも近年伸びてきたのはLED照明の電源です。このLED電源は今後道路灯やトンネル照明など公共分野でメンテナンス需要の増大が見込まれます。今後は日本はもとよりアジアを中心とした新興国で道路等のインフラ整備が進む中で、LED電源を突破口にしてアピールしつつ、その中から医療等の分野にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

—今後、自社の強みをどのように発揮されますか。

我が社は電源メーカーであり、人に快適で電気を求める全てのケースがターゲットです。しかしながら、大手と競合するのではなく、自社の強みを最大限に活用でき

サンエー電機株プロフィール

各種電源機器(LED照明用、医療用、ランプ点灯用、高電圧、カスタム等の電源)
資本金: 7,000万円 従業員: 100名
京都市南区久世殿町295
Tel.075-933-2411

る分野でフレキシブルに対応していかねばなりません。それには材料の特徴を活かし、無駄をなくした設計による軽量小型化のモノづくりです。従来あったモノを融合させて新しいモノを生みだすのが、我が社の得意とするところです。

「材料の気持ちになって考えよう」を設計の基本にしています。材料には様々な性格や長短所があるので、設計者にはその長所を活かした設計が求められます。例えば医療現場では、従来太いファイバーを口に入れていた胃カメラを鼻から入れることで医師と会話しながら検査を受けることが可能となり、更に検査時間も大幅に短縮されました。材料がやりたいことを自由にやらせることで、材料の能力を発揮させ、内視鏡装置の小型・高性能化に大きく貢献したのが我が社の電源です。

電源メーカーとして今後のターゲットは、マーケットニーズの変化に的確に対応していくことを基本に、人手不足のためのロボットを操作するエネルギーの研究、電池との融合性が出てくるマイクロ波発生用電源などに積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

—人材の育成についてのお考えを聞かせて下さい。

当然ながら自社においても取り組んでいます。幸いにも社員定着率も高いですし、自分達で考え設計し社会に貢献しようという意欲が横溢しています。今後とも大いに後押ししていきたいと思っています。尚、京都工業会の開催される研修会・見学会に積極参加させたところ、他社社員と触れ合い、他流試合により大きな刺激を受けて来るようで、とても頼もしく思っていますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

第595回 京都工業クラブ

10 / 27

「わが国航空機産業の現状と今後の展望」

経済産業省 製造産業局航空機武器宇宙産業課
航空機部品・素材産業室長 北廣 雅之氏

わが国初の国産ジェット旅客機MRJが米国での試験飛行に臨んでおり、今後の需要拡大への期待から航空機関連産業への関心が高まっていることから、経済産業省から航空機部品・素材産業室長 北廣氏をお迎えし、お話をいただいた。



講演では、我が国及び世界の航空機市場の動向、今後の航空機産業政策、そして関西地域の航空機産業等について豊富な資料を基に詳細な説明がなされ、わが国航空機産業の多様な可能性を感じられる興味深い例会となつた。

第596回 京都工業クラブ

11 / 25

「伝統文化と人材育成～京都花街の事例～」

京都女子大学 現代社会学部 教授 西尾久美子氏

企業における人材育成は重要な経営課題であることから、今回は花街における人材育成の研究で著名な京都女子大学・西尾氏をお迎えし、企業における人材育成の参考ともなるお話をいただいた。



講演では、京都花街の基礎知識から、京都花街の人材育成プロセスにおける役割とポイント、“おもてなし力”形成プロセスなどを紹介され、古いように見えて理にかなった事業システムが構築されていることを知ることができた興味深い例会となつた。

第597回 京都工業クラブ

12 / 16

「2017年の経済見通し」

(株)三菱東京UFJ銀行 経済調査室長 佐藤 昭彦氏

今年は英国のEU離脱、米国大統領選挙の結果等、世界経済の先行きに不安を感じさせる状況が発生し、今後の景気動向に関心が高まっていることから、(株)三菱東京UFJ銀行・佐藤氏をお迎えし、2017年の経済見通しについてお話をいただいた。



講演では、世界経済のトレンド展望として足元の世界経済をどう認識すべきか、そして米国、欧州、アジア、日本それぞれの経済の見通し等を豊富な資料を基に解説され、景気動向に注目が集まる中、今後を考えていく上での参考となる例会となつた。

平成28年度 他府県産業視察

「山形県」産業視察開催報告

11月17日(木)・18日(金)、依田会長を団長とする12名で山形県の美しい自然に囲まれた工場で、世界が注目する元気なモノづくりを展開している企業を訪問した。

11月17日(木)

■(株)チノ一山形事業所（天童市）

資本金：42億9,000万円、製品出荷額：27億2,300万円、従業員：135名。事業所長の久永達夫氏から事業概要説明を受け、その後、工場内を視察。同社は平成4年にチノ一の子会社として創業以来、セキュリティ用の人体感知センサを製造するとともに応用商品の開発・生産を続け、平成24年4月に株式会社チノ一と合併。現在は、チノーグループのセンサデバイス製造をほぼすべて手掛けており、近年は、水素自動車などに利用される水素ガス漏れ検知センサの開発に力を注いでいる。



■(株)片桐製作所（上山市）

資本金：7,000万円、売上高：42億9,600万円、従業員：215名。社長の片桐鉄哉氏から事業概要の説明を受け、その後、工場内を案内頂いた。同社は、昭和22年の創業当初、ミシン部品を中心に製造。冷間鍛造を柱に、オートバイや自動車のディスクブレーキ、フューエルインジェクタなどの部品や超砥粒工具をはじめ金型も製品として製造している。工場内では、素材のカットからプレスや旋盤による自動車部品加工の過程を視察した。

■山形県大阪事務所、同県商工労働観光部との懇談会

宿泊先の蔵王温泉「たかみや瑠璃俱楽部リゾート」において山形県商工労働観光部次長の清野一晴氏並びに今回の視察の企画から実施まで大変お世話になった産業立地室長の佐藤龍則氏、産業立地主査の三浦啓樹氏、山形県大阪事務所副所長の菅原靖氏ご同席のもと、産業振興や観光振興について懇談した。

11月18日(金)

■栄春堂（天童市）

山形の特産品「将棋駒」を製造・販売している本格的工房。将棋駒の生産量日本一の街ならではの工房を視察。

■(株)天童木工（天童市）

創業：昭和15年、資本金：3億円、従業員：321名。ホームユース事業部参事の川股忠氏から木の薄板を合わせ、自由な造形を作る「成形合板」の技術を日本でいち早く実現し、家具・インテリア用品の設計製造で世界をリードしていること等、事業の説明を受けた後、ショールーム及び工場内を視察。本年開催のリオ五輪の卓球競技で利用された卓球台の足部分の製造や会議場等に設置される机やイスを製造する工程等を視察した。

■(株)山形共和電業（東根市）

資本金：1億円 製品出荷額：26億円 従業員：209名。社長の田中義一氏から、同社は昭和48年、(株)共和電業の子会社として創業以来、センサ品の製造を担当し、グループ全体の生産額の約70%を生産。物理的な微小変化量(ひずみ)を電気信号として検出する「ひずみゲージ」とその応用計測器で国内シェア40%を占める(株)共和電業の主力工場であること等の説明を受けた後、工場内を視察。クリーンルームで加速度計が生産される工程などを視察し、社会の安心、安全を支える技術について学ぶ機会となつた。

白鷺クラブ 活動レポート

11月11日(金)

第15回交流会を京都で開催

11月11日午後、白鷺クラブ、あさって塾（滋賀経済産業協会）、E C O M（奈良経済産業協会）、くすのき会（兵庫工業会）の4会合同交流会がホテルグランヴィア京都において開催され、46名が参加した。今年は白鷺クラブがホスト役をつとめた。

丸山白鷺クラブ代表幹事の開会挨拶の後、本会副会長（株）片岡製作所

片岡宏二社長が講演会①として「当社のグローバルニッチトップ経営」をテーマに経営方針、事業方針、開発方針などのポイントについて講演を行った。

続いて講演会②として2日前のトランプ氏当選を受けて、同志社大学法学部教授、国際政治学者 村田晃嗣氏が「米国大統領選挙（11月8日投票）の結果と今後の日本外交」と題し登壇、両氏から時宜に適した有意義な講演がなされた。

その後は恒例により和やかな懇親交流会を開催、一年振りの会合ということで大いに座は盛り上がり、来年度滋賀県での再会を約し、閉会となった。



▲片岡 宏二氏



▲村田 晃嗣氏

予告ご案内

◆経営革新セミナーを開催◆

経営や事業革新等で高いシェアを誇る企業のビジネスモデルに学ぶ事を目的に、「経営革新セミナー」を今年度も開催いたします。意欲ある経営幹部のご参加をお勧めいたします。

＜期間＞平成29年1月20日(金)～3月30日(木)

＜会場＞京都工業会館（14：00～16：00）

＜内容＞～ゲスト事例紹介と意見交換～

1月20日(金)

「企業間連携による試作産業創出と自社ビジネスモデルの進化」
～「京都試作ネット」と「薄板金属加工のコンビニ」のシナジーとは～
(株)最上インクス 相談役 鈴木三朗氏

2月23日(木)

「各種蛇腹開発でオンリーワン企業へ」
～カメラ用蛇腹から折りたたみ式太陽光パネルへ～
(株)ナベル 社長 永井規夫氏

3月14日(火)

「βチタンパイプ～京都発、世界が驚いた金属革命～」
～新たな市場開拓を目指して～
二九精密機械工業(株) 社長 二九良三氏

3月30日(木)

「事業革新(パイロット・マニファクチャリング・サービス)で新規市場を開拓」
～大手企業のサプライヤーとして培った技術を活かした事業革新～
日光精器(株) 社長 中山 享一良氏

◆業務革新研究会 活動紹介

本会の数多くの人材育成事業の中でも、「基幹事業の1つである業務革新研究会（8研究会）」では、10月例会から後期・実務編に突入し、研究会毎に先進的な取り組み事例に学ぶ工場見学や前期・基本編で各アドバイザーから学んだ各種手法を実際の企業事例で実践する現場改善実習を行う等、活発な活動を展開しています。以下、主な活動概要を紹介します。

[VE（開発・設計革新）研究会] (10月13日)

製品や部材のもつ機能面に着目するVE手法から、開発・設計段階に適用する具体的方法を実践を通して研究している「VE（開発・設計革新）研究会」では、アドバイザー谷 彰三氏（バリューアップ研究所 代表）から学んだVEの考え方を基に近畿セキスイハイム工業㈱を訪問し、積水化学工業㈱の取組みを学んだ。

◇取組み事例

「海外関連会社への製造プロセスVE適用」

○VEテキストの作成

・米国向け製造プロセスVEテキストの作成

・SAVEとの整合性

（日本VE協会とアメリカVE協会）

・英語表現の工夫

（日本語の表現は曖昧なので、簡潔に表す）

○VE実践

・現地でのワークショップ

・半年後、フォローアップミーティングを実施

[生産現場リーダー力強化研究会] (11月21日)

リーダーの部下指導、育成方法や課題達成に向けた上司、部下及び他部門との連携方法（ペクトル合わせ）、コミュニケーション方法など、戦略的リーダーのあり方を研究している「生産現場リーダー力強化研究会」では、アドバイザー川崎和久氏（元パナソニック㈱）から学んだリーダーのあり方を基に日新電機㈱を訪問し、参加者と日新電機㈱のリーダーの方と一緒にグループ討議を行い、改善手法やリーダーシップを学んだ。

◇取組み事例

「デジタルリレー検査工程の自動化活動」

○NSリレー特性検査工程の自動化

【従来】

・製品設定をかえる

・結線をつなぎかえる

・検査項目を手動で操作

【改善】

・特性検査中の動作測定点の変更

・検査用入出力回路結線の方法

・試験機の自動制御の方法

○単品リレー製品生産ラインのIT支援

【従来】

・作業者が原紙ファイルを選び、コピー

・作業書

→作業屋台に印刷し掲示

・組立チェックシート

→紙に印刷し、チェック後押印

【改善】

・作業台（移動化）にタッチモニターを設置

—京都発。新産業・新技術の創出をめざして— 京都産学公連携フォーラム2017 ご案内

《京都ビジネス交流フェア2017と 同時開催》

と き：3月1日(水)、2日(木) 10:00～17:00
 ところ：京都パルスプラザ（京都市伏見区竹田鳥羽殿町5）
 主 催：京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都大学
 京都府立医科大学、京都府立大学、同志社大学
 立命館大学、龍谷大学、京都府、京都市
 京都商工会議所、京都産学公連携機構
 (公社) 京都工業会
 共 催：(公財) 京都産業21

【プログラム】

- 基調講演** (3月1日(水) 10:10～12:20)
 講演①
 「IoTの動向と製造業ビジネスモデルへのインパクト」
 株野村総合研究所
 ICT・メディア産業コンサルティング部
 主席コンサルタント 桑津 浩太郎 氏
 講演②
 「富士通が考える次世代ものづくり ICTについて」
 ～日本版Industry4.0の実現を目指して～
 富士通㈱
 産業・流通営業グループ
 プリンシパル・コンサルタント 熊谷 博之 氏

シーズとの出会い

- 「液相法を用いた金属ナノ材料の創製」
 (地独) 京都市産業技術研究所 塩見 昌平 氏
 「高分子—ヒドロキシアパタイト複合材料の合成と機械的強度」
 志同社大学 水谷 義氏
 「イオン液体を用いたバイオマスからの有用化学物質生産」
 京都府立大学 宮藤 久士 氏
 「ペプチド—無機材料複合体の合成と機能」
 龍谷大学 富崎 欣也 氏
 「ロボット研究、特にロボット群、ハプティクス（触感覚）技術」
 京都大学 遠藤 孝浩 氏
 「織物を用いたウェアラブルデバイス」
 京都工芸繊維大学 島崎 仁司 氏
 「ユーザの感性に適した製品の提案システム」
 京都産業大学 萩野 晃大 氏
 「3ポートDC電力ルーティング装置」
 京都科学技術イノベーション推進協議会 門 勇一 氏
 「高速研磨技術の実用化」
 立命館大学 谷 泰弘 氏
 「3Dプリンタでドローンは軽くなる？～多孔体作成とその評価～」
 京都府中小企業技術センター 宮内 宏哉 氏
 「研究開発、故障解析を支援する最新型X線CTシステムのご紹介」
 (株)島津製作所 夏原 正仁 氏
 「希少難病に対する新医療機器の医師主導治験」
 京都府立医科大学 外園 千恵 氏

JETRO ジェトロ京都事務所ご紹介

日本貿易振興機構(ジェトロ)

日本貿易振興機構（ジェトロ）の41カ所目となる国
 内事務所「京都貿易情報センター（ジェトロ京都）」は
 2015年1月15日に開所し、活動を開始して丸2年となります。1.京都产品的輸出支援、2.京都企業の海外進出支援、3.外国企業の京都誘致、4.京都発クールジャパンの世界
 への発信の4つの柱を掲げ活動しています。

開所以来、食品から伝統工芸、金属・機械まで幅広い
 分野から日々様々なお問い合わせをいただいており、京
 都企業の海外ビジネスに対する関心の高さを実感してい
 ます。毎月70件程度の相談をいたしております、そのうち8割は
 海外への輸出または進出の相談となっています。

また、産業分野や国・地域別のセミナーを開催し、海外ビ
 ジネスの情報提供に努めています。今年度開催したテーマとし
 ては、バイオ分野の海外展開、インドにおける知的財産分野、
 米国大統領選挙結果および米国南部のビジネス環境、などがあ
 ります。海外のバイヤーを招聘した商談会は食品分野、デザ
 イン製品分野においてこれまで4回京都にて開催しました。



▲米国ビジネスセミナー
 (2016年12月2日開催)



▲デザイン分野海外バイヤー
 招聘商談会「Good Goods
 Japan in KYOTO」
 (2015年3月11日-12日)

さらに、今年2月より「新輸出大国コンソーシアム」という事業を開始し、各種産業分野及び海外各国の事情に精通した専門家による個別支援を実施し、12月時点で56社の京都企業に活用いただいております。

その他、地域間産業交流支援事業（Regional Industry Tie-Up : RIT事業）の一環として、京都府・京都市と連携し、米国マサチューセッツ州・ボストン市とのライフサイエンスを核としたビジネス交流を進めるべく、事前調査を実施しています。

京都企業の留学生などのグローバル人材の獲得に向けた支援も行っております。高度外国人材活用のためのワークショップの開催や外国人留学生と京都企業の交流会を開催しています。

今後も京都企業のニーズに沿った事業の実施、海外事務所とのネットワークを活かした情報提供など、事業者様に寄り添ったサービスを提供していきます。京都工業会の会員企業をはじめ、多くの京都企業の利用をお待ちしております。

日本貿易振興機構（JETRO）京都貿易情報センター

T E L : 075-325-5703

F A X : 075-325-5706

e-mail : KYO@jetro.go.jp

<http://www.jetro.go.jp/indexj.html>

〒600-8813

京都市下京区中堂寺南町134

京都リサーチパーク2号館2階



平成28年度 京都中小企業技術顕彰

技術大賞受賞

トクデン(株) (社長: 北野 良夫氏)

京都工業会事務局及び京都工業会館
年末年始休業日のお知らせ

平成28年12月29日(木)~平成29年1月4日(水)

優秀技術賞受賞

応用電機(株) (社長: 茶屋 誠一氏)
(株)カシフジ (社長: 横藤 達郎氏)
(株)菊水製作所 (社長: 島田 理史氏)
ヒロセ工業(株) (社長: 廣瀬 正貴氏)
(団体会員)

心よりお祝い申し上げますとともに、益々のご
発展をお祈りいたします。

清酒 月桂冠

お酒は20歳になってから。お酒はおいしく適量を。

京菓子處
鼓月

本社 京都市伏見区横大路下三栖
電話 075-(623)-1651

歌舞伎銘菓 夕霧

琴の姿をうつした京名物
井筒ハッ橋

Since 1805 文化二年

井筒ハッ橋本舗 琴姿

祇園本店 京都市東山区川端通四条上ル 北座
TEL 075-531-2121 <http://www.yatsuhashi.co.jp>

日本には、多くの“長寿企業”が存在することを知っていますか？
世界にある創業200年以上の企業。
その約半数が日本企業と言われています。
一方で、新興企業の多くが数年以内に倒産しているのが現状です。

一社一社が日本の財産。
企業が当然のように存続する“企業の高齢化”が実現すれば、
日本はもっと元気な国になっていくはず。

私たち京都信用保証協会は
公的な“保証人”機能として、
金融と経営の総合支援サービス
を行い、企業がいつまでも活躍する
社会を実現していきます。

3才
平成26年に創業

158才
安政6年に創業

あなたの企業の一員に
京都信用保証協会
CREDIT GUARANTEE CORPORATION OF KYOTO
www.kyosinpo.or.jp

企業高齢化へ。

一緒にがうれしい
On Your Side

いつでも、あなたの
ビジネスのそばに。

京都中央信用金庫

本店／京都市下京区四条通烏丸西入ル
TEL 075-223-2525
FAX 0120-201-580(フリーダイヤル)
URL www.chushin.co.jp

なが——い、おつきあい。

事業をしっかりサポート ビジネスパートナーをご紹介 アジアでのビジネスをサポート
事 業 融 資 **ビジネスマッチング** **貿易・海外取引**
 企業の成長戦略をお手伝い 各種金利プラン充実
M&A **住宅ローン**

京都銀行はさまざまなシーンで
皆様を応援します！

飾らない銀行
京都銀行

ゆたかなコミュニティを求めて

コミュニティ・バンク 京都信用金庫は
地域の皆様とともに歩んでまいります
これからもよろしくお願ひいたします

京都信用金庫

<http://www.kyoto-shinkin.co.jp/>

京都工業会「女性の会」参加企業における女性が輝く☆企業の取り組み事例紹介③

(株)堀場エステック 事業戦略室 小田垣 静華

株式会社堀場エステック

京都市南区上鳥羽鉢立町11番地5

社長：小石 秀之

創業：1974年（昭和49年）1月19日

資本金：1,478百万円 従業員数：468人

流体計測・制御機器、真空計測・分析機器、液体材料

気化装置、標準ガス発生装置、ガス発生・精製装置、

精密混合装置及びその応用製品の開発、製造、販売

や「HORIBAワーキングマザーの会」などの子ども同伴でのイベントを通じて、ワーキングマザーのネットワーク形成などを行っています。今後はグループ全社員を参加対象としたイベントや、拠点の垣根を越えたイベントを増やしたりと活動の幅を広げていきます。

2015年からは働き方改革を重点課題に取り上げて推進し、このプロジェクトの取り組みと「おもしろおかしく」の企業風土が評価され、平成27年度新・ダイバーシティ経営100選（経産省）にも選定いただきました。



▲平成27年度新・ダイバーシティ経営100選表彰式にて
(株)堀場製作所
齊藤壽一、森口真希

■具体的な取り組み

社員一人ひとりの意識に働きかけるために、ワークショップや社外交流活動を実施しています。また、社内のロールモデルチームを紹介するといった活動も行っています。本社だけでなく全国の拠点でもワークショップを開催し経営層や管理職と社員が対話する機会を設定したり、社外の著名人を招聘して講演会を多数開催しています。

女性活躍の断面では、堀場製作所の女性役員や女性管理職は特別な存在（スーパーウーマン）という印象が大きかったため、女性管理職が自らのキャリアについて語るワークショップを通じて身近に感じやすい関係づくりやキャリア意識の醸成を支援したり、女性が社外に出て発言する社外交流機会の提供を継続的に行ってています。参加者からは「「無意識の壁」が自分にあることに気付いた」「新しい仕事をする機会が増えた」などの声があがっています。

堀場エステックでは、昨年末に初の試みとしてワーキングマザーランチ会を開催し、「部署を越えた理解者」という心強いつながりを得られた」「家事や育児の工夫を共有できた」「今後もぜひ継続していきたい」といった前向きな意見が多くあがりました。ワーキングマザーランチ会は、堀場製作所でも女性管理職有志が主体となり開催しています。その他、「ママ・ホリバリアンお帰りなさい会」



▲堀場エステックでのワーキングマザーランチ会

■気付きの先に見えてきたもの

堀場エステックでは女性活躍推進法での数値目標を「意思決定プロセスにおける女性の割合を2020年に15%とする」と定めています。業務上ではすでに戦力として活躍している女性が、表舞台で活躍し、会社の意思決定プロセスに参画できるようになってはじめてダイバーシティ&インクルージョンが達成できると考えています。

達成に向け社員へのヒアリング等を通して実態把握に努める中で、時短勤務者や女性社員に対してこれまで上司が過剰に気を遣って声をかけなかった、若手人材育成をリードする役割、専門職・技術職向けの外部セミナー参加などの機会を実は本人は志望していた、といった理解の差が多々あることが判明しました。これには、今まで「(こういった本音が) 見えていなかったのではなく見ていなかったのかもしれない」という気付きを得た管理職もいました。

この差を解消すべく一念発起し、これまでの無意識の性別役割意識を取り払おうと、原点に立ち返り取り組みを再開しました。結果、時短勤務の女性社員がHORIBAグループ全体の若手人財育成をリードする役割を務めあげるという当社初の実績を生んだり、大学生を対象としたキャリアデザインセミナーに当社の女性社員がスピーカーとして登壇したりなどと、少しずつ成果が出始めています。

本人が手をあげれば誰でも無限に活躍の場を広げることのできる土壤が着実に整いつつありますが、当社にはまだ女性管理職は誕生しておらず、目に見える成果の観点では、まだまだ取り組むべき課題が少なくありません。ダイバーシティの取り組みは、冒頭で触れたように「女性のため」のものではなく、すべての社員のフルポテンシャルの発揮を最終目標としています。今後も一人ひとりが自らの仕事に誇りをもち、自分自身で限界を決めることなく活躍できる職場を目指し、精力的に取り組みを継続していきます。

京都工業会ニュース No.389

2016年12月28日発行
発行 公益社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
URL : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp